

平成28年度 第3回鳴門市教育振興計画審議会 会議概要

【開催日時】：平成28年10月26日（水）午後6時30分から午後8時40分まで

【開催場所】：教育委員会棟2階会議室

【出席者】：審議会委員10名

阪根委員、朝田委員、久次米委員、黒濱委員、先田委員、佐藤委員、
徳永委員、藤田委員、山本委員、湯地委員

鳴門市6名

大林教育次長、天満教育総務課長、竹下学校教育課長、事務局3名
傍聴者 なし

○次第

- 1 開会
- 2 会長あいさつ
- 3 審議会委員の自己紹介（初出席委員）
- 4 議事
 - (1) 補足事項について
 - ① 複式学級の現状
 - ② 新たな共通学区設置後の状況
 - ③ 瀬戸中学校区における小中一貫教育について
 - (2) 第二期鳴門の学校づくり計画の素案について
 - ① 計画策定の基本方針等について
 - ② 小中学校の再編実施計画及び幼稚園の再編実施計画について
- 5 その他
- 6 閉会

○会議資料

- 【資料1】 鳴門市教育振興計画委員一覧
- 【資料2】 平成28年度第2回鳴門市教育振興計画審議会 会議概要
- 【資料3】 鳴門の学校づくり計画策定スケジュール
- 【資料4】 複式学級編制を有する小学校の児童数の推計
- 【資料5】 平成21年4月に設置された共通学区からの通学者数
- 【資料6】 瀬戸中学校区幼小中一貫教育について
- 【資料7】 小中一貫教育の制度化について
- 【資料8】 学校づくり計画 現行計画と第二期計画との比較
- 【資料9】 平成28年度現在小学校・中学校の状況について
- 【資料10】 平成27年度類似団体幼稚園・保育所・認定こども園数調べ
- 【資料11】 第二期鳴門の学校づくり計画＜素案＞

○会議概要

- 1 事務局が開会を宣言した。
- 2 阪根会長があいさつを行った。
- 3 初出席の審議会委員が自己紹介を行った。
- 4 議事

会 長

前回の審議の中で出たご意見、ご質問等について補足事項の説明をお願いします。

議事（１）補足事項について

事務局より、資料４～資料７に基づき説明した。

会 長

共通学区については、通学の距離が一番のポイントだろうと思うが、うまく子どもも分かれて効果はあったとみていいのではないか。

瀬戸中学校区の幼小中一貫については、それぞれの園・学校間の距離がある中で連携を強化していくというイメージだが、これからどのような形にしていくのかということとはまた委員の皆様から意見をいただきたいと思う。

また今年度、鳴門東、瀬戸、堀江南の３小学校が編制基準上では複式学級となるところだが、鳴門東と堀江南では教頭による担任や加配教員により複式学級が解消されている状況である。来年度以降の推計については、学齢簿の児童がそのまま全員、指定の学校に入学したらということでの試算だが、当然変動はあると思う。そのあたりの見解はどうか。

学校教育課長

指定校が複式学級編制になる学校である場合、単学級での教育を希望し指定校変更するケースはある。そういったケースは今後もあるものと考えている。

会 長

共通学区についてはどうか。

I 委員

今回平成２１年度から２８年度までの、共通学区の児童がそれぞれの小学校に行っている割合を出してもらっているが、これと比較できるような平成２１年度以前のデータがあれば新たな共通学区を設置したことの成果が見えてくると思うがいかがか。

事務局

今回平成２１年度以前のデータは出せていない。ただ、平成２１年度以前は立岩字五枚の児童は指定校変更をしないかぎり全員が林崎小学校に通い、学区ということで考えるとそもそも里浦小学校に通う児童はいないはずだった。

I 委員

平成２１年度以前にも立岩字五枚の児童で林崎小学校から里浦小学校へ指定校変更して通った子もいたと思う。その数と今回の平成２１年度から平成２８年度までのデータを比較し、成果が出ていればこの方向性を継続し、成果が出ていなければ何らかの方策を検討すべきだと思った。

学校教育課長

平成２１年度以前のデータとのことだが、少し古いデータになるので、学校に問い合わせても数字が出てくるのに時間がかかる。正確な数値は分からないが、平成２１年度以前の状況としては、先ほど事務局から申し上げたような状況であったと思う。

教育次長

共通学区について補足させていただく。現行学校づくり計画策定時に新しく共通学区を定めようとしたのは、林崎小と里浦小、第一小と大津西小の２カ所で、里浦小を例にあげると、立岩字五枚地区は林崎小の校区だが位置的には里浦小の方が近いということと、里浦小の児童数が減少し厳しい状況にあり、共通学区を設置することで里浦小の方に行ってもらいたいという思いがあって共通学区を設置することとした。

I 委員

第一小と大津西小も同じような状況だったのか。

教育次長

第一小と大津西小については、現行学校づくり計画策定時に、もともとは第一小学校区であった11号バイパス以西の撫養町木津地区を共通学区としたが、ひとつはバイパスをくぐって大きい道路を通って第一小学校に行かなければならない状況にあったという児童の安全性の観点、もうひとつは大津西小学校の児童数が減少している状況の中で、共通学区を設置することで大津西小学校の方に行ってもらいたいという思いがあって、共通学区の線引きをした。

会 長

以前の数値は出てないけども、明らかに成果はあっただろうということでよいかと思う。

B 委員

平成20年当時、立岩字五枚地区については指定校変更しなくても近くにある里浦小に行けたらいいなというような話が出ていた記憶がある。林崎小だからいい、里浦小だからいいではなく、近いからという理由が大きかったと思う。

会 長

どちらの学校がいい悪いという話ではなく、通学距離、交通事情を考慮したうえでの共通学区の設置だったということだろう。それでは、続いて第二期学校づくり計画素案の基本方針等について、事務局から説明をお願いする。

議事（2）第二期鳴門の学校づくり計画の素案について

① 計画策定の基本方針等について

事務局より、資料11に基づき説明した。

会 長

資料11素案の19ページまで説明いただいた。ここは皆さんからご意見でもご感想でも一言ずついただこうと思う。

F 委員

この素案の中で言われている教育の質ということに関して、先生方の仕事量も増えていく中で、質を上げていくということがどのような形で表れてくるのかということも思った。

J 委員

資料11素案18ページの公立幼稚園の再編に関して、幼稚園を取り巻く環境がこれからどんどん変わっていくのはまさにその通りだと思う。再編に関しては、今後のあり方を総合的に検討、という部分に不安を感じる。

K 委員

公立幼稚園の再編については、今後保育所も含めた就学前教育ということで将来的な認定こども園への移行、設置も具体的に考えていく流れになりつつあると思う。

E 委員

一貫教育というと城ノ内中・高のような受験をして入学するというイメージがあるが、ここでいう幼小中一貫教育ということに関して、普通の小学校、中学校との違いがよく分からない。またこの一貫教育に幼稚園がどのような形で関わってくるのかもイメ

ージできないので、改めて説明していただけたらと思う。

G 委員

始めての子を持つ親にとっては保育所、幼稚園、小学校の流れ一つとっても分からないことが多く、分からないままできてその子どもに影響を及ぼしてしまうというのが一番よくないことだと思うので、特にこのように大きく制度が変わっていく時こそ本当に分かりやすく若い保護者の方にも理解できるような方向に持っていければいいかなと思った。

会 長

こういった計画を公開するにあたってはポンチ絵を使ったり、平易な言葉を使ったりといった工夫は必要だということ。

D 委員

基本方針の最後、規模の大小によらない対等統合ということに関して、瀬戸中と北灘中の統合の際にも、この対等統合という理念に賛同しかねるといった方々が多くいたように思う。今後また瀬戸中校区の小学校の統合という話が出た時には同じような事態にならないかという危惧がある。今、瀬戸小校区から、やはり大きい学校で学びたいと明神小学校へ指定校変更して行っている子もいるだろうし、逆に瀬戸小学校で学ぶことにこだわりを持って通っている子もいる中で、今統合を進めるよりは、先ほど説明のあった幼小中一貫教育の連携を推し進め、統合の機運を待つという方がいいのかなと思う。

会 長

この対等統合という言葉がわざとらしく感じ、ここにひっかかりを感じる人も出てくるのではないかな。

D 委員

地域の中には校名や校歌に強い思い入れを持っている方もいて、対等統合の名のもとに校名や校歌を新しくすることに強く反対する方がいる。人数が多い方の地域の方には対等という言葉は許しがたいものがあると思う。

I 委員

瀬戸中学校区の幼小中一貫教育について、児童生徒数の増加が見込めない中で、特色ある学校づくりということで進められているものと思う。今年度中に確立するとしている目指す子ども像についても、地域のニーズに合った分かりやすい子ども像を示す必要があると思う。また、小学校、中学校教員の人事交流といったこともスムーズに行えるような体制を整えることが、他の学校にはない教育活動として大きな意味合いをもつと思う。また、瀬戸中学校区での幼小中一貫教育の取組の成果であったり課題であったりといったことが、他の学校現場には一切見えてきていない。そうした情報をいかにして共有できるかが、一貫教育を進めていくうえでの課題であると思う。

A 委員

先ほども出たが、幼小中一貫教育の学校とそうでない学校とは一体どのような差異があるのかというのは重要な指摘であるし、その中の教育の質ということも重要な問題だと思う。特にプロセスの質は重要で、幼小接続のデータでいうと、子ども同士や学校の先生同士の連携や交流は上手にできているが、幼から小のカリキュラムの接続が上手にできていないところがある。そこを、この瀬戸中校区の幼小中一貫教育で取り組む、連携の強化や中身の接続といった試みが鳴門市全体に広がっていけば教育の質も高まってくるのではないかなと思う。

B 委員

この審議会では、何をよりどころにして学校づくりをするかということを繰り返し考えているわけだが、地域に目を向ければ学校が無くなれば地域が寂れる、元気な子どもの声が聞こえなくなり寂しい思いをしているといった声がある一方で、子どもたち自身は、それまでの学校が休校になって別の学校に行くようになっても特に不自由は無いし、むしろ良かったというアンケートの結果もあるということで、多様な考えがある中で学校づくりを考えていくのは本当に難しいものと思う。

ただ、先ほども出た教育の質ということで考えると、地域に学校が無くなったら困るという発想よりまず子どもたちの教育をどうするかといった問題を第一に考えなくてはならないのではないか。

昨年12月に出された徳島教育大綱の中でもグローバルな人材という言葉が使われていたように、これからの時代、急激に変化する国際社会の中で世界に目を向けていくことのできる人材を育てないといけない、と同時に地元にもしっかりと目を向けて郷土愛を育むことも大事、これらを相反するものでなく、両輪として歩んでいくことが大事であると思う。

そう考えた時に、少人数での教育というのは、地域に目を向けたローカルな教育をするには適した環境であるが、グローバルな社会を生き抜くために多様な考えに触れ、自ら考え、結論を導くといった教育をするのは困難ではなかろうかと思う。

会 長

委員の皆様にはたくさん、貴重な意見をいただいた。それでは、これまで出た意見を踏まえて、事務局の方で回答いただけるものはないか。

事務局

瀬戸中学校区の小中一貫教育について、まずはこの校区でどういった人材を育てたいかという目指す子ども像を幼・小・中で共有しようということで取組を始めたところである。その目指す子ども像の実現に向けて、生活面、学習面でどのようなことが必要かといったことを校種を超えて教員が集まり検討する場を設けたところ、次第に自発的に集まり話し合う空気も出て、校種を超えた教員同士の交流も活発に行われる状況になってきたのではないかと思う。

会 長

たびたび意見にも出ていたが、小中一貫、小中連携など言われているが何が違うのかと言えば、基本的には教育課程に弾力性があるかどうかということで、まさに教育の質と繋がってくるものである。どうしても学校間に距離があると、小中一貫、小中連携といってもうまくいかないものだが、ここをうまくやっていく一つのポイントとして教員の動きが重要となってくる。つまり人的な交流や合同の行事を続けていくことで徐々に形を整えていくこと。

それでは、これまで出た意見を整理する。まず、素案18ページ小中一貫教育としているタイトル、下に括弧書きで幼小中一貫教育と書くなら、タイトルも幼小中一貫教育にしてしまってもいいのではないか。次に、総合的に検討するとあるが、総合的に入れることによって変な引っかかりが生じないか。最後に、対等統合という言葉についても、理念として持ってはいても、あえてここに出すことで、引っかかりをもたらしてしまわないか。この3つの大きな意見について、事務局の方で検討をお願いします。では、続いて素案20ページ以降の再編実施計画について、皆さんから意見をいただきたい。

議事（2）第二期鳴門の学校づくり計画の素案について

② 小中学校の再編実施計画及び幼稚園の再編実施計画について
事務局より、資料11に基づき説明した。

会 長

再編実施計画について読み上げていただいた。いろんなご意見、ご感想あるかと思うが、ここからは順番ではなく自由に発言していただこうと思う。

I 委員

鳴門中学校区の再編実施計画では、小中一貫教育校と銘打っているのに対し、瀬戸中学校区では小中一貫教育の推進と微妙に表現が違っているが、それぞれの中学校区について思いがあつてのことか。また、校区によって、再編としているところと統合としているところがあるが、それぞれの言葉の持つ意味合いに大きな違いがあるという認識で使い分けているのか。また、小学校の再編・統合についても、設置場所に言及しているところもあれば、していないところもある。それぞれの校区の事情もあると思うが、同じように各校区の記述を見た場合に、少しずつ書きぶりに差異がある点に引っかかるところがある。

会 長

実には確かな指摘で、地域の方がこの計画を見た時に、なんで書きぶりに差異があるのだろうという感想は間違いなく出てくると思う。
この点について、事務局の方で答弁できることはあるか。

事務局

小中一貫教育の記述について、まず瀬戸中学校区は現時点ですでに取組を進めている状況であるということの意味し、鳴門中学校区においては、小中一貫教育校としているがまだこれからの先の検討課題としてあるという認識で、具体的な小中一貫教育校の形にまで言及したものではない。

会 長

小中一貫教育「校」としてしまうと、どうしてもそこに限定されてしまうので、訂正の必要があると思う。

教育次長

書きぶりについては、ご指摘のとおりで、出させていただいた案の中でも統一できていない点が多く見られるため、しっかり精査させていただきたい。

会 長

I 委員のご意見から、書きぶりの問題、設置場所についての言及という点で表現を改めて精査するということとなった。

たとえば、瀬戸中学校区だと「5校を1校に統合します」とするのか、「5校を1校に統合し、同地域の学校を存続します」とする。すると、鳴門市としては、瀬戸・北灘地域については、学校を存続させるという方向性を持っていると示すこととなる。実際に、瀬戸・北灘地域の学校規模だと、たちまち統合対象となる市・町がある中で鳴門市は地域性も考慮したうえで、この地域から学校を全く無くするような方向性ではないと明示する仕方もあると考えられる。

A 委員

資料10について、幼稚園の適正規模を示すデータとして分かりやすい資料と思ったがここでいう類似団体というのは人口規模が同規模ということではないか。

学校教育課長

人口規模の他に、産業構造も近いということでの類似団体である。

A 委員

資料10には各市の人口と施設数が書かれているが、さらに児童の人口を出してそれを施設で割り、児童何人あたり1校・園あるというデータがあれば、比較するデータとしてもいいと思う。

会 長

鳴門市の場合は、幼稚園教育が充実しているということが一つの特色としてあるので、他と比べて数が多くても問題視する必要はない。ただ、そうとしても極端に多いなというイメージは持っている。こういったことも含めて、他と比較するというのは客観的なデータとして必要である。

K 委員

この学校づくり計画の計画期間は10年ということで認識しているが、再編実施計画は5年後の児童生徒数の予測で判断されているように思うが、計画途中で見直しをすることもあるのか。

学校教育課長

基本的に10年という計画期間の中で、社会情勢や教育環境の変化に応じての見直しということは考えている。

D 委員

瀬戸中学校区の再編実施計画で明神小学校と瀬戸小学校について、統合しますと言い切った表現になっているが、瀬戸小学校側の保護者、地域の同意具合などはどうなっているか。瀬戸小側への説明が不十分なままで、この案が出てしまうと強い反発が出てくるのではないかと思う。

教育次長

これまでの学校再編の進め方の基本的な考え方として、しっかり保護者と地域の理解を得てから進めるということを考えてきた。ただ、保護者全員、地域全員の理解が得られなければ進めないというのではなく、一部の反対する方を除き一定の理解が得られれば、概ね理解を得られたという判断で学校再編を進めてきた。基本的なスタンスはこれまでと変わらず、地域と保護者の理解を得ながら進めていくという考えである。さらに言えば、先ほどから何度かご意見いただいている対等統合という考え方について、前回の計画を作る時に、教育行政を進めていくうえで大切にしなければならないことは何かと考えた時に、弱者の立場に立って物事を考えていくということが基本になるだろうと考えた。鳴門市の場合、統合するといっても新しく校舎を建ててといったことはせず、既存の施設を活用するという考え方で、実質的に規模の小さい学校は対等統合と言いながら地域に学校が無くなるといった状態が生じる。ただし、どの学校も100年を超える長い歴史があり、学校に対する思い入れに規模の大小は関係無いということで対等統合という理念は外せないとなった。

また、瀬戸小学校については、前回計画の中でも複式学級編制があり、再編が急がれる地域ということで、説明会は何度も開催してきたが、小規模校の良さがあるから瀬戸小学校を選んでいくといった意見もあり、統合に関しての理解が得られていないのが現状である。

会 長

今、教育次長がおっしゃったような考えがあるとするならば、この学校づくり計画そのものをこの審議会が答申するという形なのか、あるいはこの審議会があくまでもチェック機関であるのかということによっては、表現の仕方が変わってくるのかなという気もする。この審議会がどういう形でこの計画案の中で対応していくというのは、

とても重要で、存続する、統合するといった断定的な言い方や、対等統合の理念は外せないとなると、このあたりは次回までに市の方でしっかり考えていただく必要があるかと思う。

この計画が市の方で出す再編計画で我々はそれをチェックするという機関であるなら市の資料として後方に別添資料という形で、答申を残すという方法もある。

教育次長

少し説明させていただくと、前回の学校づくり計画から基本的なことは何も変わっていない。具体的に一步踏み込んだ表現をしたということもない。

書きぶりが大きく変わった点があるとすれば、幼稚園についての書きぶりのみで、それ以外については、考え方も含めて前回計画と変わったところはない。

会 長

これまでのご意見で、いくつか整理をしておかないといけないポイントが見えてきたかと思う。それは、存続、統合、再編といった言葉の意味合いを我々がどう捉えるかということ。そして、この学校づくり計画の策定にあたって、誰が計画を出すのか。鳴門市長なのか、教育長なのか、そこをはっきりさせないといけない。教育委員会が主体となり、我々審議会がそこに対して意見を申し上げる体制なのか、そのあたりの整理を事務局の方をお願いしておきたい。

E 委員

瀬戸中学校区の小中一貫教育について、すでに連携の取組もされているということで、合同の行事や授業があるかと思うが、それぞれの学校への移手段はどうしているのか。

事務局

学校間の移動については、そのための予算を確保しており、移動の必要がある際はタクシーや人数によってバスの手配をしている。

G 委員

各学校とも耐震化は完了し児童生徒の安全は確保されているとあるが、親からすれば登下校の時間も含めて学校という意識もあるため、学校内だけでなく、登下校時の安全の確保についても書いておいてくれればありがたいなと思った。

会 長

再編統合して通学時間が長くなった、果たして登下校時の安全が確保できるのかといった親の不安があるとしたら、そこにどう対応できるかといった点も必要であるということ。

B 委員

存続、再編、統合といった用語もそうだが、日本語の文末表現ひとつにも捉え方が様々あって、「検討します」や「検討していきます」といった表現が混在しているが、特にそこに意図を持たせていないのであれば、統一した方がいいのではないかと思う。

教育次長

文末は「します」で揃える。

会 長

表現に我々がこだわるのは、この審議会の立ち位置が見えていないため、誰が計画策定にあたって主体的になるのかということの整理が必要であると言わせていただいた。

J 委員

資料 1 1 の 2 5 ページで幼稚園の再編実施計画があるが、この部分だけでは見えてこないことも多く、市全体の就学前教育・保育という視点もはっきりと形にはなっていないのではないかと思う。

会 長

これからの就学前教育・保育の方向性といったことだと思うが、2 5 ページからは幼稚園が再編せざるを得ない状況になりつつあるといったことに含みを持たせるための今回の計画だご理解いただけたらと思う。

今回の計画全般に言えることだが、今すぐ動かないといけない差し迫った状況なのか、それともここ 2、3 年は今後どう動くかをしっかり見定めていく時期と考えているのか、それによって表現の仕方も変わってくるのかなという感じはある。

F 委員

再編実施計画の内容を四角で囲んで書いているが、これだけを見ても、学校が無くなるのか、統合されるのか、と寂しいイメージが湧いてくるが、この四角の中に統合することによって子どもたちにこんなメリットがある、というような期待が持てるような言葉、文があってもいいのではないかと思う。

会 長

一番いいのはこの四角の枠を取ってしまい、文章の中で再編実施計画を示すことで、ここだけに注目がいかないようにすること。この計画全般のもつ意味合いとして、先に言ったように今すぐのことなのか、それとも 3 年後、5 年後を見据えてのものなのかでこの表現の仕方を変えていいかもしれない。

J 委員

幼稚園の再編実施計画について、幼小併設の方針は継続されるのか、それとも市全体の就学前教育・保育の視点という枠組みで考えることになるのか、そのあたりに触れられていないのが気になる保護者もたくさんいると思う。

会 長

そのあたりのことも、市がこの学校づくり計画を作るにあたってどこにこだわりを持っているのか。そのこだわりを受けて、我々委員がどういった形で対応していくのかというところをしっかりと考えなければと思っている。

今回委員の皆様からたくさん意見いただき、また事務局からもこの計画に対してのお考えを聞くことができ、盛況な審議会となったと思う。

5 その他として、事務局より次回の開催については 1 1 月 2 8 日を予定している旨報告した。

6 閉会

以上